



動物園の仲間たち

ヒツジ（ウシ科）

今月号から、五月山動物園の仲間たちを
順次紹介します。

3月1日、オスの子ヒツジが誕生しました。生後2カ月が経過し、運動場内を元氣いっぱい飛び跳ねています。生後3週間ごろにはぼつちりと芽を出した角も、少し角らしくなってきました（写真上）。ヒツジの角は私たちの爪などと同じ「ケラチン」からできていて、しんになる頭骨の突起に鞘のようにかぶさっています。五月山動物園のヒツジはオスの大きな角が特徴的ですが、約2年かけて二重の渦巻き型に成長します。この形は、角をぶつけ合ったときの衝撃を逃がすのに適しています（写真下）。

さて、現在家畜ヒツジの種類は3000種以上になりますが、最初に西アジアに生息する野生種「ムフロン」「ウリアル」を家畜化してから、私たちとヒツジは1万年以上のお付き合いになります。毛を利用するために改良された家畜ヒツジは換毛しないため、毛刈りを行う必要があります。五月山動物園でも毎年5月中旬に飼育員が毛刈りを行っています。1年間で伸びた毛の量は、1頭3〜4kgにもなります。毛刈り前の5月上旬が最も「もこもこ」の姿ですので、今月は上旬・下旬と動物園に足を運んでいただいで、ヒツジの「変身」した姿をぜひご覧くださいと思います。

広報誌が届かなかったら…

『広報いけだ』は毎月1回1日発行です。発行日の正午までに広報誌が届かない場合は、宅配委託社・㈱リビングプロシード（フリーダイヤル☎0120-679-355）へ。

配布業者が変わりました

今号より配布業者が変わりました。それに伴い連絡先を変更していますので、ご注意ください。



古紙配合率100%再生紙を使用しています